

笑顔のそばに
MEGMILK

社会・環境報告書 2007



企業理念

自然からお客様までのミルクコミュニティを育み
明るく健やかなくらしに貢献します。



私たちが考えるミルクコミュニティは、お客様からお取引先・販売店・生産者・株主・社員に加え、牛や大地とも共生し、自然で健康的な価値を生み出す有機的ネットワークです。

日本ミルクコミュニティ株式会社のコーポレートブランド名は、
MEGMILK(メグミルク)です。
このコーポレートブランド名を、社名の愛称としても使用しています。

ごあいさつ

「よい土がよい牧草を育て、よい牧草はよい牛を育む。そしてよい牛はよい牛乳を出し、牛と牧草が作る肥料は、再びよい土を育てる。」酪農は自然が備えている循環サイクルを上手に利用した農業です。そして酪農から生まれる牛乳は、おいしくて栄養バランスに優れた自然の恵みです。私たち日本ミルクコミュニティ株式会社は、この酪農と牛乳のすばらしさをしっかりと見つめ直し、皆様にその価値を広く提供していく会社として2003年1月に誕生しました。

あらゆる企業はすべて「社会」の中で活動しており、単独で企業活動が続けることはできません。弊社も「お客様」「お取引先」「販売店」「生産者」「株主」「社員」などの多くの人々の連携と協力があってはじめて成り立っています。これらの人々は全体で大きな輪を形づくっており、この輪の中には牛、大地などの私たちがどくまく自然も含まれています。弊社はこの人々と自然を包含した大きな輪を「ミルクコミュニティ」と名づけ、そのまま社名としています。この「ミルクコミュニティ」を創り・育むことによって社会に貢献することこそが弊社の使命と考えています。

一方、地球規模での環境問題がクローズアップされている中で、今年は74年ぶりに我国の最高気温が更新されたり、北極海の氷面積が過去最小となるなど、近年の顕著な温暖化現象は、まさに環境問題まったなしの感があります。京都議定書の第一約束期間(2008~2012)がいよいよ始まり、国際的にも人と自然の調和・共生した持続可能な社会経済システムの構築に向けた取り組みが本格化してくることが予想されます。弊社も企業の発展と社会の発展が密接に関係していることを再認識した上で、環境に配慮した事業活動を積極的に展開し、持続可能な社会の構築に資する企業でありたいと考えています。また、優れた製品・サービスを環境も含めた倫理的側面にも十分配慮した中で創出することにより、引き続き社会の発展に貢献していきます。

これまで弊社は社会や環境に対する取り組みについてホームページなどを通じ、適宜、情報を発信してまいりましたが、会社設立から5年という節目に弊社の取り組みを皆様にさらに広く、詳細に知っていただくために「社会・環境報告書 2007」を発行することとしました。今後も透明性のある事業活動と皆様とのコミュニケーションに積極的に努め、情報開示を推進してまいります。なお、弊社の取り組み及び報告内容をさらに質の高いものにするためにも、本報告書に関してのご意見やご要望などをお寄せいただければ幸いです。



2007年11月
日本ミルクコミュニティ株式会社
代表取締役社長 小原 賢

目次

はじめに

企業理念	1
ごあいさつ	2
目次	3
報告にあたっての基本要件	4
編集方針	4

環境の取り組み

環境方針	5
2006年度までの環境活動	6
水への取り組み	7
温暖化防止への取り組み	9
温暖化防止への取り組み・環境との調和	12
廃棄物の削減・再資源化への取り組み	13
ロジスティクスの取り組み	15
グリーン調達と3Rの取り組み	17
物質の流れ	19
ISO14001の認証取得	20
2007年度環境マネジメントの推進	21

社会的取り組み

社会に対する環境活動の理解促進	23
社会とのコミュニケーション	25
安心安全をお届けする仕組み	27
コーポレートガバナンスとコンプライアンス	31
労働安全衛生の取り組み	34

会社の概況

会社概要	35
2006年度の業績	36
事業所一覧	37
ガイドラインとの対応	38



報告にあたっての基本要件

報告の対象：日本ミルクコミュニティ株式会社(単体)
報告の期間：2003年度～2006年度(初めての発行のため)
一部、2007年度の直近の活動も報告しています
報告の分野：環境的分野、社会的分野、経済的分野
発行 行：2007年11月
次回発行予定：2008年 8月
発行責任者：取締役 山登 正夫(生産統括部担当)
作成主管部署：生産統括部 生産技術グループ 環境対策チーム

本報告書内容に関するお問い合わせは
日本ミルクコミュニティ株式会社
お客様センター(9:00～17:00) 【フリーダイヤル】0120-464-369
<http://www.megmilk.com>
〒162-0067 東京都新宿区富久町10-5 新宿EASTビル

編集方針

弊社は「自然からお客様までのミルクコミュニティを育み 明るく健やかなくらしに貢献します。」を企業理念として掲げ、社会の一員として強い認識を持ちながら、企業活動を進めてまいりました。このたび初めて発行する本報告書は、企業理念に沿って「環境」だけではなく、「社会」「経済」についての報告も含むこととしました。牛乳という「自然の恵み」を、どのようにミルクコミュニティを育みながら、皆様にお届けしているか、本報告を通してご理解いただければ幸いです。

初めての報告ということもあり、皆様に親しんでいただけるよう、できる限り読みやすくすることを念頭に作成しました。また、報告の内容は「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」(環境省)及び「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」(GRI)を参考に作成しました。

GRI：Global Reporting Initiativeの略。
環境面だけでなく、社会・経済面も含めた、報告書の世界的なガイドラインを制作している国際団体。

環境方針

弊社は2005年10月、「環境方針」を制定しました。

このなかで、すべての企業活動において、環境への負荷の軽減を図ることを約束しています。

環境方針

「自然の恵みを大切にします。」

豊かな自然の恵みを、お客様に安全に届けることは私たちメグミルクの社員に課せられた大切な使命です。そのために私たちは、自然の恵みをもたらす地球環境の保全に積極的に取り組み、事業活動と地球環境の共生に努めて参ります。

【行動指針】

私たちは、牛乳、果汁、ヨーグルトなどの製造および販売等に関わる事業活動を対象に環境方針、環境目的および環境目標を設定し、定期的な見直しを行なうとともに、環境に対する継続的改善と汚染の予防に取り組むため、以下の指針に基づき、環境マネジメントシステムを推進します。

1. 社会への貢献
企業活動を通しての社会貢献とともに、自然保護活動等を支援します。
2. 企業情報の開示
会社を取り巻く関係者とのコミュニケーションを図り、信頼性のある情報を適時、積極的に提供します。
3. 地域社会との交流
「開かれた工場」など、事業所において地域社会とのコミュニケーションを積極的に行います。
4. 環境への配慮
地球環境を保護するため、関連する法令・規則を守ります。
また、すべての企業活動において、環境への負荷の軽減を図ります。
5. 排出物の適正な処理
地域社会の環境を保護するため、法令・規則を守り、排出物を適正に処理します。
さらに廃棄物については積極的に減量と再資源化を図ります。

2005年10月1日
日本ミルクコミュニティ株式会社
代表取締役社長 小原 賢



環境への取り組みは、私たちの企業理念実現活動の一環と位置づけています

弊社では、2003年の設立以来、全社それぞれの部門が環境保全に取り組んできました。水使用量の削減、CO₂排出量の削減、廃棄物の削減などは、今や

地球規模の課題となっています。ここに弊社が2006年度までに実施してきた、環境活動をご報告します。

2006年度までの活動ダイジェスト

環境目標	担当	実績
水使用量の削減	工場	2006年度は2003年度に比べて、原単位を7%削減、総量でも5%削減することができました。
電力使用量の削減	工場	2006年度は2003年度に比べて、原単位を9%削減、総量でも7%削減することができました。
燃料使用量の削減	工場	2006年度は2003年度に比べて、原単位を13%削減、総量でも11%削減することができました。
全場所参加の環境活動展開	全社	社内報でエコ通信と題して、環境関連記事を掲載し社内への情報発信・啓蒙活動を実施しています。また、全社で「チーム・マイナス6%」に参加。「クールビズ」「ウォームビズ」の他、「昼休みの消灯」段階の積極的使用などに取り組めました。
廃棄物削減とリサイクル率向上 リデュース、リユース、リサイクル推進	工場	2006年度、全12工場1製造所中6工場がリサイクル率90%以上を達成しました。
最適物流体制の構築・体制整備	本社 ロジスティクスセンター	2005年に配車センターを設置したことにより全国の出荷場所間輸送が一元管理できるようになりました。その結果、効率的な配車が可能となり、配送コースを大幅に削減することができました。
グリーン調達の推進	本社	グリーン調達基準を作成。紙パックなどの包装原料の梱包資材のリユース化(プラスチックダンボール化)や生産工場に近い場所から原料資材を購入するなどの取り組みを実施しました。
ISO14001の認証拡大 (マルチサイトとして拡大) (本社、富里、児玉、川越、名古屋、神戸、福岡工場、京都工場池上製造所)	本社 新規取得工場	2005年12月に既に取得していた5工場に本社を加え、マルチサイトとして一括認証取得し、さらに2007年3月に新規6工場1製造所の拡大認証を取得しました。

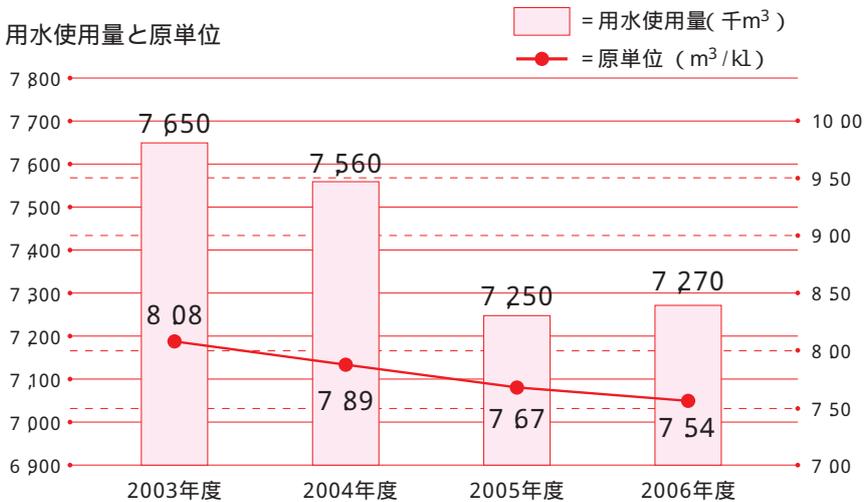


水への取り組み

メグミルクは水を大切にしています

工場での水使用量の削減状況

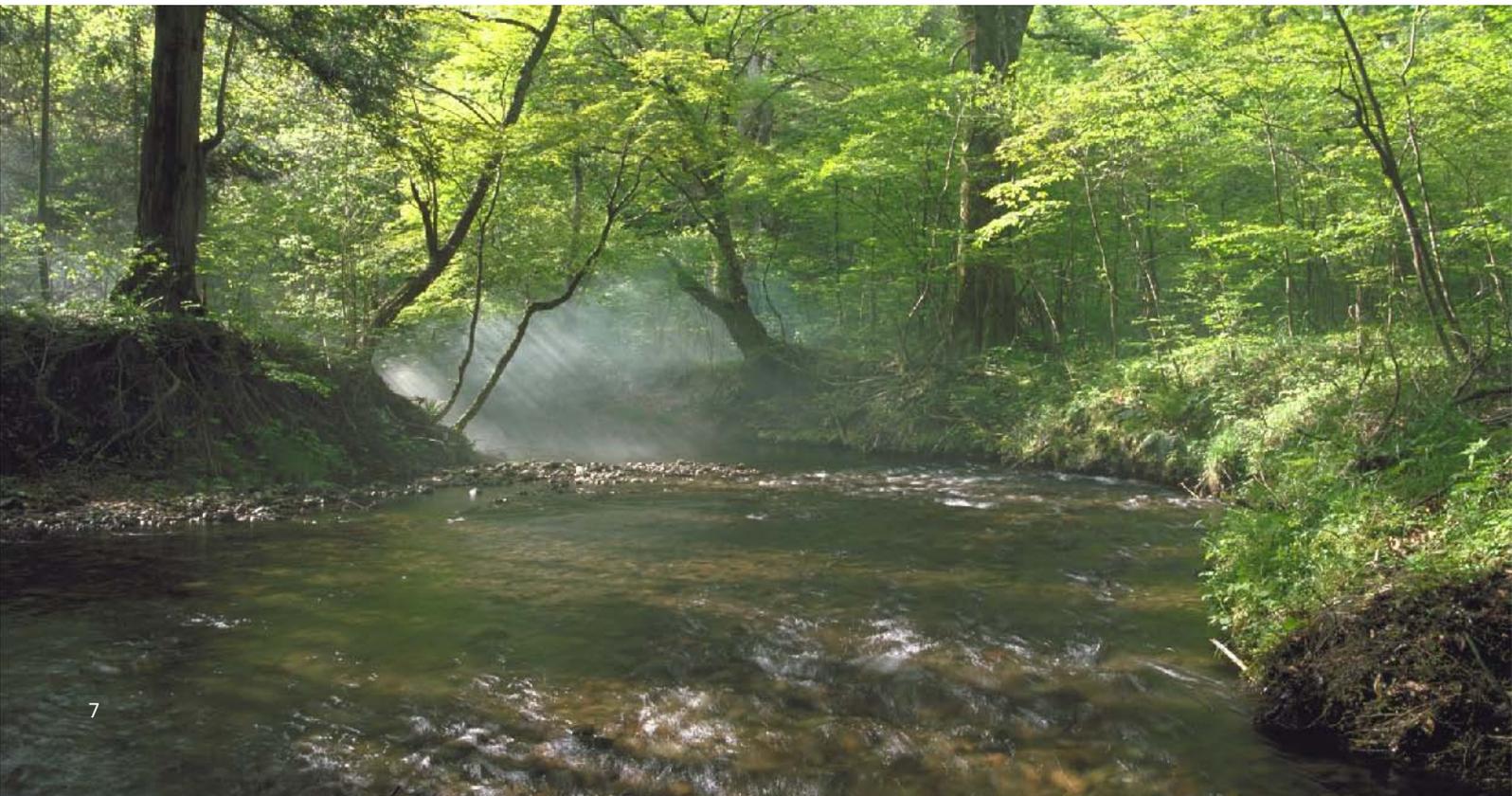
日本にいると無限とも思える水資源ですが、限りある大切な資源のひとつです。お客様に安心・安全な商品をお届けする上で十分な洗浄作業は欠かせませんが、洗浄ラインの効率化などの工程改善や最適な洗浄時間の検証などを通して、水の使用量が削減できるよう、たゆまぬ努力を続けてきました。



2006年度の年間水使用量は7,270千m³で、前年並みとなりましたが、原単位は前年比で2%の削減となりました。

2003年度を基準とすると総使用量は5%の削減を達成しました。

原単位：使用の効率を表す値。
メグミルクでは、使用量を生産量で割った値を用いています。

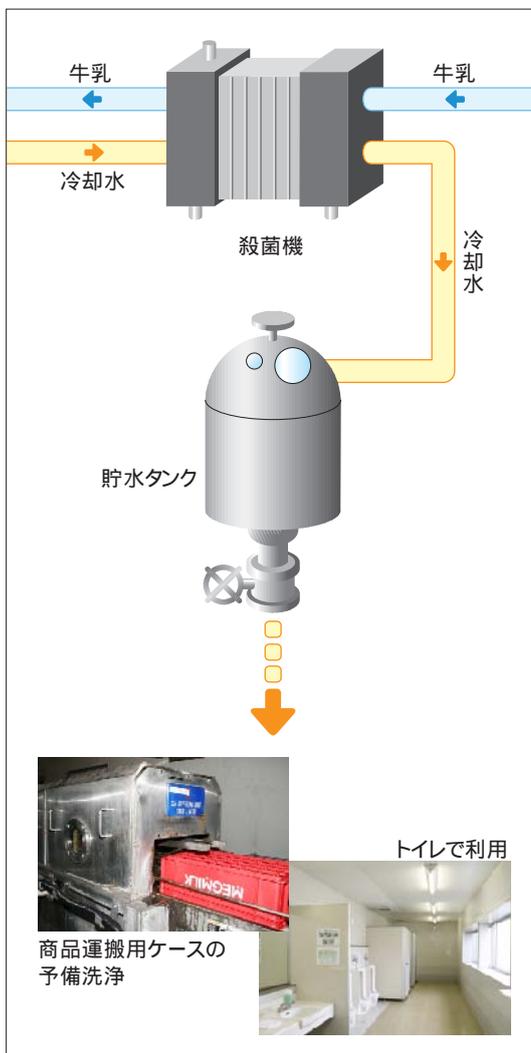


水資源の有効活用

水使用量削減の一環として、各工場では冷却水や衛生上問題のない箇所に処理済みの排水を二次利用するなど、水資源の有効活用に努めています。ここでは代表的な取り組みをご紹介します。

冷却水の二次利用

野田、川越、日野、福岡の4工場では、殺菌した牛乳を冷却するための熱交換に使用したきれいな水をタンクに貯めて、商品運搬用ケースの予備洗浄やトイレなどで二次利用しています。



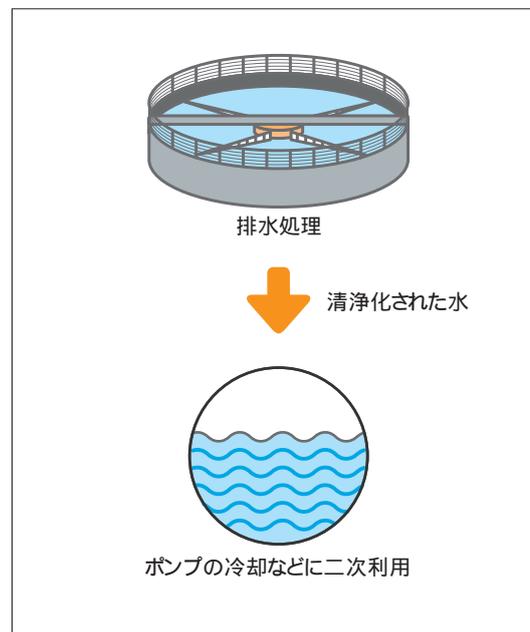
排水処理の二次利用

富里工場では、排水処理場で処理したきれいな水を、排水処理場のポンプの冷却水など食品の衛生性に影響のない箇所で二次利用しています。



富里工場

その量は年間で50,000トン(25mプール約150杯分)にもなります。



富里工場の排水浄化設備

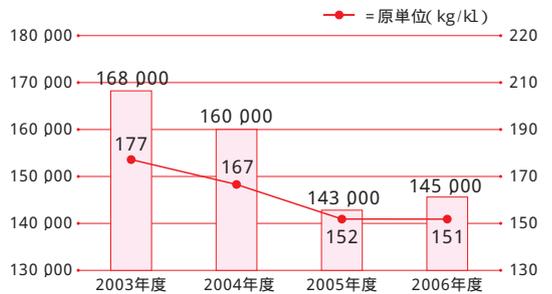
温暖化防止への取り組み

温室効果ガス(CO₂)排出量の削減に取り組んでいます

工場でのCO₂排出量削減状況

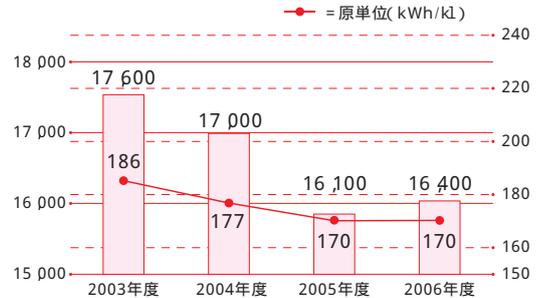
IPCC(気候変動に関する政府間パネル)による報告は、地球の温暖化は深刻であり、早急な対応が必要であるとしています。メグミルクは持続可能な社会の実現に貢献するために、積極的にCO₂の削減に取り組んでいます。2006年度のCO₂排出量は145千トンで、前年比は1%の増加となりましたが、これは生産量の増加によるもので、原単位は年々減少傾向となっています。

CO₂排出量と原単位



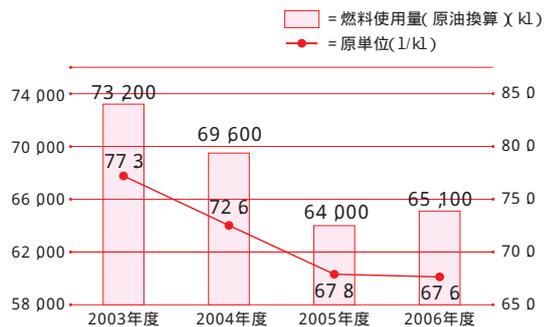
CO₂排出量は、2003年度と比較して23千トン、14%削減しています。

電気使用量と原単位



電気使用量は、2003年度と比較して1,200万キロワット、7%削減しています。

燃料使用量(原油換算)と原単位



燃料使用量(原油換算)は、2003年度と比較して8,100キロリットル、11%削減しています。



燃料転換、コ・ジェネレーションの導入

工場での主要燃料源を重油から、よりCO₂排出量の少ない天然ガスに変更するものです。ガス化はCO₂排出量の削減に効果的であることから、メグミルクでは段階的に燃料転換を進めています。近くにガス管が引かれている9工場のうち、既に5工場(富里、日野、海老名、豊橋、神戸)でガス化が完了しており、2007年度中にさらに2工場(札幌、川越)でもガス化実施予定です。残る工場においても、検討を行っています。また、燃料を効率的に利用するために自家発電時の廃熱を牛乳の殺菌などの熱源として回収する、コ・ジェネレーション設備を6工場1製造所(富里、海老名、日野、豊橋、京都、神戸工場、京都工場池上製造所)に導入しています。



コ・ジェネレーションシステム(富里工場)



コ・ジェネレーションシステム(豊橋工場)



富里工場



豊橋工場



海老名工場



京都工場



京都工場池上製造所



神戸工場

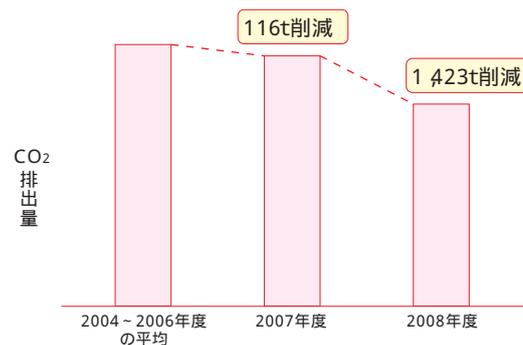


日野工場

温室効果ガス排出量取引

環境省が実施する第3期「自主参加型国内排出量取引制度」において、札幌工場が目標保有参加者タイプAに、富里工場が新しく制度化された目標保有参加者タイプCに参加申請し、2007年5月10日に採択されました。タイプAは一定量の温室効果ガス排出削減を約束する代わりに、排出削減に関わる設備投資に対する補助金の交付を受けるもので、タイプCは設備補助を受けることなく、基準年度(2004~2006年度平均)排出量から2007年度において1%以上、2008年度において2%以上の排出削減を約束するものです。メグミルクは2工場合計で2007年度は116(t-CO₂)、2008年度は1,423(t-CO₂)の削減を約束しています。

CO₂削減目標



約束した削減量確保に向けて厳しい管理を行い、環境問題の最重要課題である温暖化問題に責任を果たすと同時に、将来予測される本格的な排出権取引のノウハウを蓄積したいと考えています。

温室効果ガス排出量取引制度参加工場



札幌工場(タイプA)



富里工場(タイプC)

温暖化防止への取り組み

チーム・マイナス6%への参加と、各事業所での省電力への取り組み

メグミルクでは、チーム・マイナス6%に参加。それぞれの事業所で取り組みをしています。

チーム・マイナス6%とは2005年2月16日に発効した京都議定書において、日本が世界に約束した温室効果ガス排出量6%削減の約束を実現させるための国民的プロジェクトです。

京都議定書：深刻な問題となっている地球温暖化解決のために、世界各国が協力して作成した温室効果ガス削減の枠組。

本社ビルにおける
チーム・マイナス6%の取り組み

クールビズ

6月から9月の間は、原則として上着、ネクタイの着用を中止し、冷房温度を28℃に設定しています。

また、この時期本社を訪れるお客様やお取引先にもご理解をいただくご案内をしています。



クールビズ執務風景



入り口の立て札

階段の使用

フロアを移動する際に、できるだけエレベーターを使わず階段を使用することで、電力量の削減に努めています。



階段を上っている社員



エレベーター前の張り紙

休憩時間中の照明オフ運動

本社ビルでは昼休みなどの休憩時間は、極力照明を消して節電を図っています。また同様に各工場でも通路等の照明を消し、使用電力を削減しています。



照明オフの職場風景



工場の通路

省電力への取り組み

太陽光発電の利用

野田工場では、屋上に太陽電池のパネルを設置し、年間約4万kWhを発電。これはタンクローリー約1台分の原油に相当するエネルギー量になります。



野田工場



省エネ型蛍光灯の設置

京都工場池上製造所では、事務室や見学コースに省エネタイプの蛍光灯を設置しています。同様に京都工場や日野工場などでも設置されています。



京都工場池上製造所



ナトリウムライトの使用

京都工場では、敷地内に設置された外灯を、水銀灯からより電力消費の少ないナトリウムライトに変更。従来より約50%電力の節減がなされています。



京都工場

NAS 電池

野田工場では2004年、乳業会社で初めてナトリウム硫黄電池 (NAS電池) を導入しました。NAS電池は夜間電力にて蓄電し、昼間に放電することでピーク電力を低減することができます。また発電機と異なり燃焼を伴わないため大気汚染物質の窒素酸化物の発生がなく、化石燃料比率の低い夜間電力を利用するためCO₂排出量の低減にも貢献しています。



野田工場

温暖化防止への取り組み・環境との調和

最新鋭冷却設備の導入

牛乳などのチルド製品は、常に低温を維持することがそのまま品質保持につながります。豊橋、神戸工場では従来に比べてエネルギー効率の高い最新鋭冷却設備(高効率ターボ冷凍機など)を導入し、高い品質と環境保全(CO₂排出量削減)を両立させる取り組みを行いました。



神戸工場高効率ターボ冷凍機

エネルギー管理装置の導入

これまでは供給設備中心のエネルギー管理を行ってききましたが、工場全体のエネルギー削減計画達成のためには製造現場の生産設備の電力、その他全エネルギーの計測・管理と稼働状況の監視によるエネルギー原単位の把握、エネルギー最適化が重要な要素となります。メグミルクでは段階的にエネルギー管理装置を導入して、省エネ・業務の効率化を図っています。



福岡工場エネルギー管理装置

環境との調和

メグミルクの各工場では、それぞれの立地条件に応じて周囲の環境との調和を図る試みを行っています。

『ほたるの里』と共生する京都工場

京都府南丹市に位置する、京都工場の周囲は『ほたるの里』と呼ばれ、豊かな自然と、四季折々の美しさが堪能できます。

京都工場は、このような自然環境との調和に配慮して建設されました。

一年中周囲の畑に陰を落とさないように設計された建物。また建物自体もできるだけ窓を少なくし、工場の敷地内にも周囲に光のもれない外灯を使用するなど、近隣の農作物の生育に影響を与えないように考えら

れています。

さらに、トラックが集まり、騒音の発生しやすい出荷口は、住宅を避け川に面した方角に設けるなど、設計段階よりさまざまな配慮がなされています。



広々とした敷地の真ん中に建てられた京都工場。一年中敷地の外部に影を落としません。



工場裏の大堰川(おおいがわ)に面して設置された製品出荷口。騒音が周囲の人家に届かない配慮です。



周囲の稲の生育に影響を与えないように、夜間の光には徹底して配慮。(右の写真は京都工場池上製造所)



木の枝や落ち葉を堆肥に変えて、草花を栽培
神戸工場は、一年中緑に囲まれています

神戸工場の敷地の中には、多くの樹木や草花が植えられています。実はこれらの植物は工場内に植えられた樹木の枝や落ち葉を堆肥として、土に戻し、その堆肥で栽培されたものです。枝や落ち葉をゴミとして出すのではなく、堆肥として再利用することで、ゴミの減量化や美しい環境づくりを進めています。



緑いっぱいの神戸工場。



社員の手で丁寧に刈り込まれた枝。



落ち葉もきれいに清掃されています。



これらの枝や落ち葉は1カ所に集められ、質のよい堆肥としてリサイクルされます。



この堆肥を利用して、工場内のいたる所に花壇が作られています。



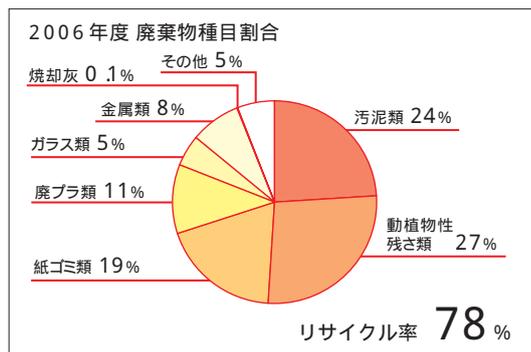
見学の皆様をお迎える花も、堆肥で育てられています。

廃棄物の削減・再資源化への取り組み

廃棄物の削減

工場における廃棄物の構成です。排水処理場から出る余剰汚泥と工程で使用できなくなった原料や廃棄製品などの動植物性残さ類が約半分を占めています。各工場では工程改善を進めて、これら廃棄物の削減に努めています。

2006年度のリサイクル率は78%となりました。



廃棄物の削減は徹底した分別から(札幌工場)



分別されたアルミふた(京都工場)



分別された段ボール(京都工場)



分別破碎された牛乳ビン(野田工場)



プラスチック製品も分別(富里工場)



汚泥の肥料化(富里工場)

リサイクルの促進

学校給食用の牛乳紙パックや工場内で発生する使用済紙パックなどは、各工場でリサイクルに取り組んでいます。牛乳紙パックのパルプは、繊維が長く、良質な紙に再生できます。また、リサイクルすることで、紙パックの環境負荷をさらに削減することができます。資源と環境負荷という大きな2つの環境問題に対して、紙パックのリサイクルは有効です。特に札幌・児玉・野田・海老名・名古屋の5工場では、専用機械で処理して再生紙メーカーに原料として売却し、できあがったティッシュペーパーやロールペーパーを購入する、という一環したリサイクルを実践しています。



回収された牛乳紙パックは、洗って細かくして無駄なくリサイクル(海老名工場)



紙パックの裁断機(海老名工場)



袋詰めされて処理会社へ



ティッシュペーパーやロールペーパーとしてリサイクル

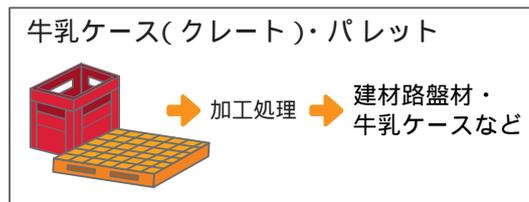
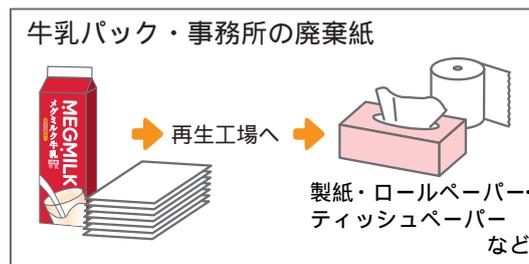
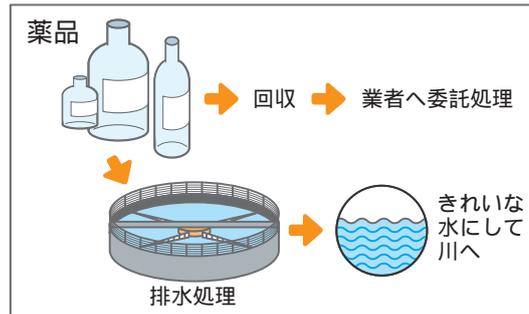
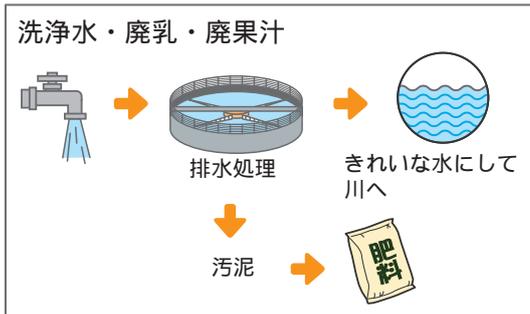
リサイクルの一例(野田工場の場合)

紙パックの他にも、積極的にリサイクルに取り組んでいます。

メグミルクのさまざまなリサイクルの仕組みを野田工場を例にとりてご紹介します。



野田工場



野田工場のエコセンター

ロジスティクスの取り組み

輸送に係る環境負荷の低減に取り組んでいます

製品輸配送におけるCO2の削減

ロジスティクスにおける最も重要な課題は製品輸配送におけるCO2の削減です。メグミルクではお取引先への配送あるいは出荷場所間の輸送にあたり、全て運送事業者に委託しています。そこで、荷主として環境に配慮した適正な車両を積極的に選択することにより、CO2排出の削減を推進しています。

2005年度より東京都調布市に配車センターを設置し、全国の出荷場所間輸送を一元管理し効率的な配車を目指しています。また、事業部毎(北海道、東北、関東、中部、関西、九州)に設置しているロジスティクスセンターではお取引先への配送において、日々低積載コースを分析し、適正な車両選択を行っています。配車・コース分析においてはメグミルク独自の物流管理システムや配車システムを活用し、配送車両の削減を進めています。

会社が設立された2003年度より出荷場所間輸送における輸送車両および輸送距離の削減を目指し、出荷場所の統廃合を進めています。

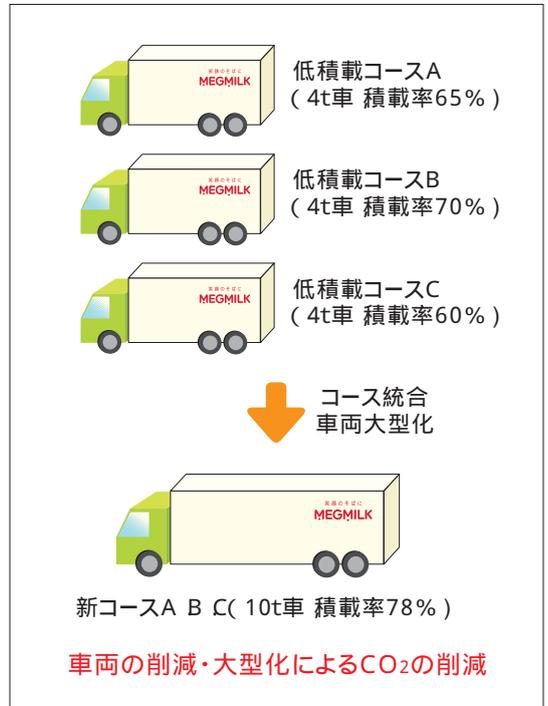
ロングライフ製品の在庫管理は全国6エリアにおいてそれぞれ行っていました。2006年度よりロングライフ商品管理チームを設置し、全国のロングライフ製品の在庫管理を一元化し、無駄な製品輸送および製品廃棄物の削減を目指しています。



メグミルク配車センター(東京都調布市)



適正な車両選択・大型化例



工場の出荷風景(左・野田工場、右・神戸工場)

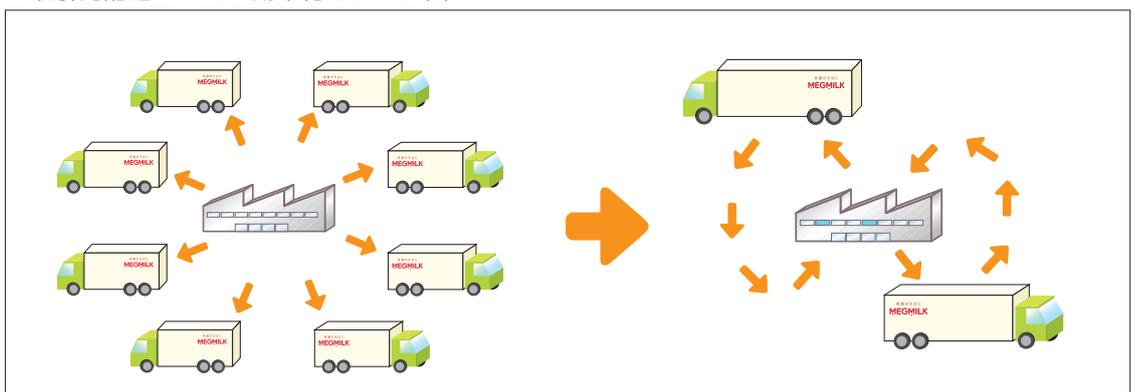
年度別お取引先配送コース推移

2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
1 767コース	1 520コース	1 397コース	1 385コース

年度別拠点推移

2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
39箇所	34箇所	33箇所	32箇所

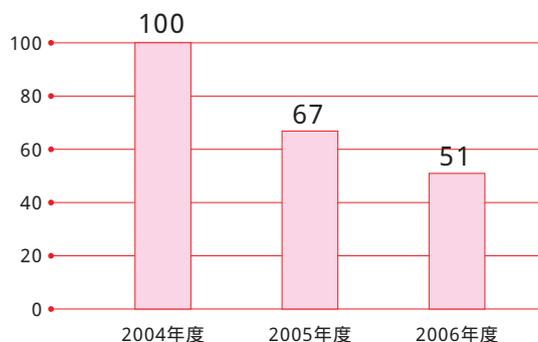
お取引先配送コースの効率化イメージ図



製品廃棄物の削減

メグミルクではお取引先への出荷可能期限が過ぎて廃棄物となる製品の削減を目指し、需要予測の精度を上げ、適正在庫管理を進めています。また、発生した製品廃棄物の処理においてはリサイクル処理可能な業者に委託しています。

2004年度を100とした場合の、製品廃棄物発生推移



製品廃棄物は、2004年度の約半分(51%)のレベルまで減少しています。

プラスチック容器(クレート)の100%リサイクル

メグミルクでは製品の保管・輸送においてプラスチック製の容器(クレート)を使用しています。使用を重ね古くなった容器はプラスチックメーカーで100%リサイクル材として使用されています。また、資材消費や廃棄物を削減するために、新容器の原料として当社容器のリサイクル材を25%の比率で使用しています。



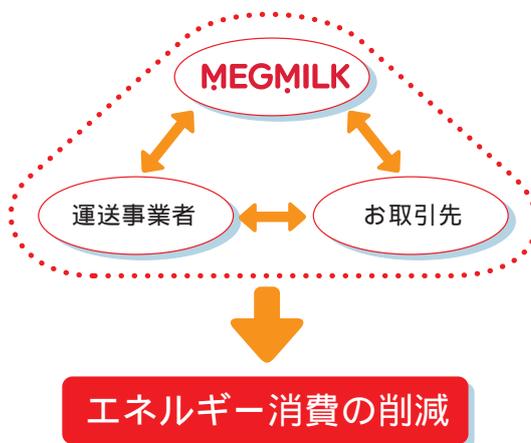
リサイクル材を25%使用した容器(クレート)



工場保管されている容器(クレート)

改正省エネ法による荷主の義務への対応

2006年4月に施行された改正省エネ法では運送事業者に加え、荷主となる事業者に対し、省エネルギーに取り組むことが義務付けられました。メグミルクでは輸配送に伴うエネルギー消費量の正確な数値を把握し、荷主企業としての取り組みを進めるとともに、運送事業者やお取引先と連携を図り、エネルギー消費量の削減を進めています。



グリーン調達と3Rの取り組み

グリーン調達

グリーン調達とは、商品を製造するための原料資材や事務用品などの消耗品を購入するにあたり、品質や価格だけでなく環境に配慮し、できるだけ環境負荷が少ない製品やサービスを購入する取り組みです。

原料資材のグリーン調達指針

グリーン調達が環境配慮型製品の市場形成に重要な役割を果たし、持続可能な社会の構築に極めて有効な手段であることを認識し、グリーン調達指針を2006年に決めました。メグミルクではこの指針に基づき原料資材調達を行っています。

グリーン調達指針

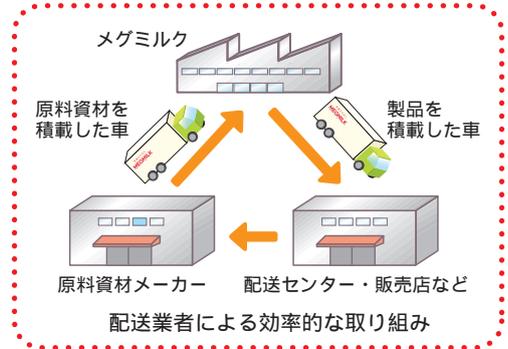
- 環境や人の健康に被害を与えるような物質を含んでいない
- 資源やエネルギーの消費が少ない
- 持続可能な資源を使用している
- 食品に直接触れない資材(梱包材など)については、再生された素材の使用率を高める
- 廃棄されるときに処理や処分が容易である
- 調達コストについては、従来品と同程度を基本とする
- 物流の合理化のため、積載効率のアップ・配送距離の短縮を図る
- 納入品の包装材については、リユース品の使用率を高める



空車活用による効率配送の実施

メグミルクが購入している原料資材は種類も多く、供給工場も多いことから、以前は原料資材を配送した後のトラックが空のまま戻るとしていましたが、配送を集約し一元管理することで、戻りのトラックに近隣の原料資材メーカーからの荷物を積んで、空車率を削減する取り組みを行っています。

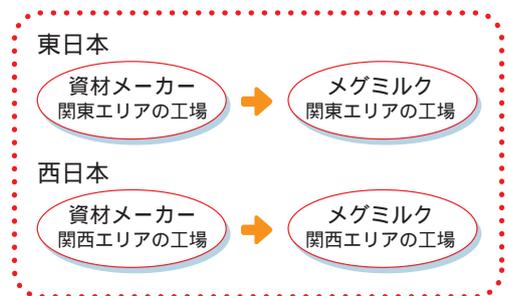
空車を利用した配送の効率化



使用工所在地に近いエリア内での供給体制の見直し

地産地消の考え方を原料資材の供給体制に応用しました。使用量の多い紙パックなどの資材では、西日本のメグミルク工場には西日本の資材メーカー工場から、東日本のメグミルク工場には東日本の資材メーカー工場から供給を行い、輸送距離をできるだけ短縮する取り組みを行っています。

原料資材輸送距離の短縮化



環境への負荷低減

3Rの取り組み

原料資材の梱包材の一部リユース化・軽量化
原料資材の中には、梱包材にダンボールを使用しているものがあります。ダンボールはこれまでリサイクルされてきましたが、3Rに則り一部のダンボールをプラスチックダンボール(プラダン)化して、リユースしようという試みも実施しています。
またリデュースの取り組みとして、品質を確保した上でダンボールに替えて薄いクラフト紙を梱包材に使用した原料資材の購入も始めています。

3R: Reduce(リデュース:減らす)Reuse(リユース:再利用)Recycle(リサイクル:再資源化)の頭文字をとった言葉。この順位で廃棄物削減の取り組みを行うのがよいとされています。



プラスチックダンボール



このように分解して、
納入メーカーに返却します



クラフト紙を梱包材に
使用した原料資材

印刷物への配慮

メグミルクで制作している印刷物は、社内報や工場見学での配布物などに可能な限り環境に優しい印刷方式を採用しています。

大気汚染を招く危険性の高い揮発性有機化合物(VOC)という有害物質を発生させる石油系溶剤を抑えた大豆油インキや、ノンVOCインキの採用。また、印刷用紙も再生紙やFSC認証紙を使用し、地球環境の保護を考えています。

FSC認証紙:FSC(Forest Stewardship Council = 森林管理協議会)の定めた「森林認証制度」に合致した印刷用紙。適切に管理された森林から計画的に伐採~加工~製紙~印刷までの履歴管理が行われていることが証明されています。



各種印刷物も
環境負荷低減に配慮



名刺にも
古紙100%の用紙を使用

megmilk.com

古紙100%再生紙使用



物質の流れ

メグミルクマテリアルフロー

原材料



生乳	427,000トン
粉乳・乳製品等原料	39,500トン
その他原料	59,100トン

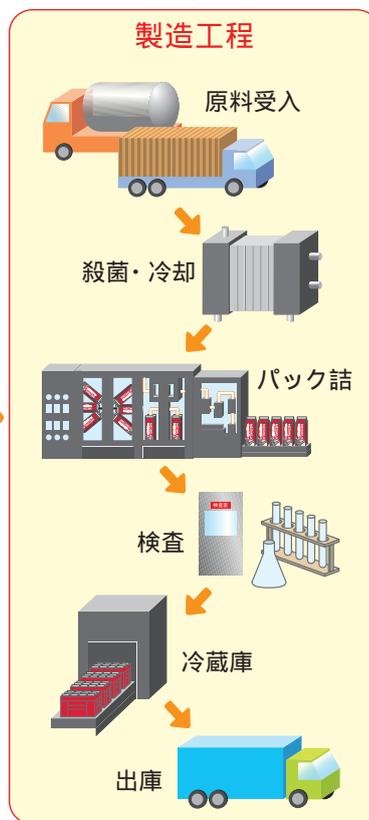
包装材料

紙パック	27,000トン
その他紙	4,900トン
プラスチック	9,230トン
ガラス	1,850トン
アルミ	190トン



ユーティリティ

電力(購買量)	11,600万kWh
燃料(原油換算)	65,100kl
用水	7,270千m ³



OUTPUT

廃棄物量	21,500トン
排水	5,730千m ³
CO ₂ 工場由来)	145,000トン
CO ₂ 物流由来)	123,000トン

商品



2006年度 自工場で使用・排出した量

ISO 14001 の認証取得状況

メグミルクは継続的、組織的に環境負荷低減に取り組むために環境マネジメントシステムの導入を積極的に進めています。会社設立当初は5工場それぞれでISO14001を認証取得していましたが、2005年12月に本社を中心としたマルチサイト形式で認証を取得。2006年度(2007年3月)はさらに、6工場・1製造所に拡大し認証取得しました。2007年度は、全国のロジスティクス部門、営業部門、管理部門に拡大し、全社一括での認証取得を進めています。これにより、部門にとらわれることなく会社一丸となった環境負荷低減活動が体系的に可能になります。

ISO14001 : ISO(国際標準化機構)が制定した環境マネジメントシステムの国際標準規格。

環境教育

メグミルクでは、環境マネジメントシステムの充実を図るため、内部環境監査員を養成する研修を外部の審査登録機関に講師を依頼して実施しています。2004年から実施してきた内部環境監査員養成研修を修了した社員は2007年5月現在、118名に達しました。

内部環境監査員養成研修修了者数

2004年	2005年	2006年	2007年
16名	20名	52名	30名



研修風景



【2005年12月】本社拡大



札幌工場



野田工場



海老名工場



豊橋工場



京都工場



本社

【2007年3月】6工場・1製造所拡大



富里工場



児玉工場



川越工場



名古屋工場



京都工場池上製造所



神戸工場



福岡工場



メグミルク全社へ拡大

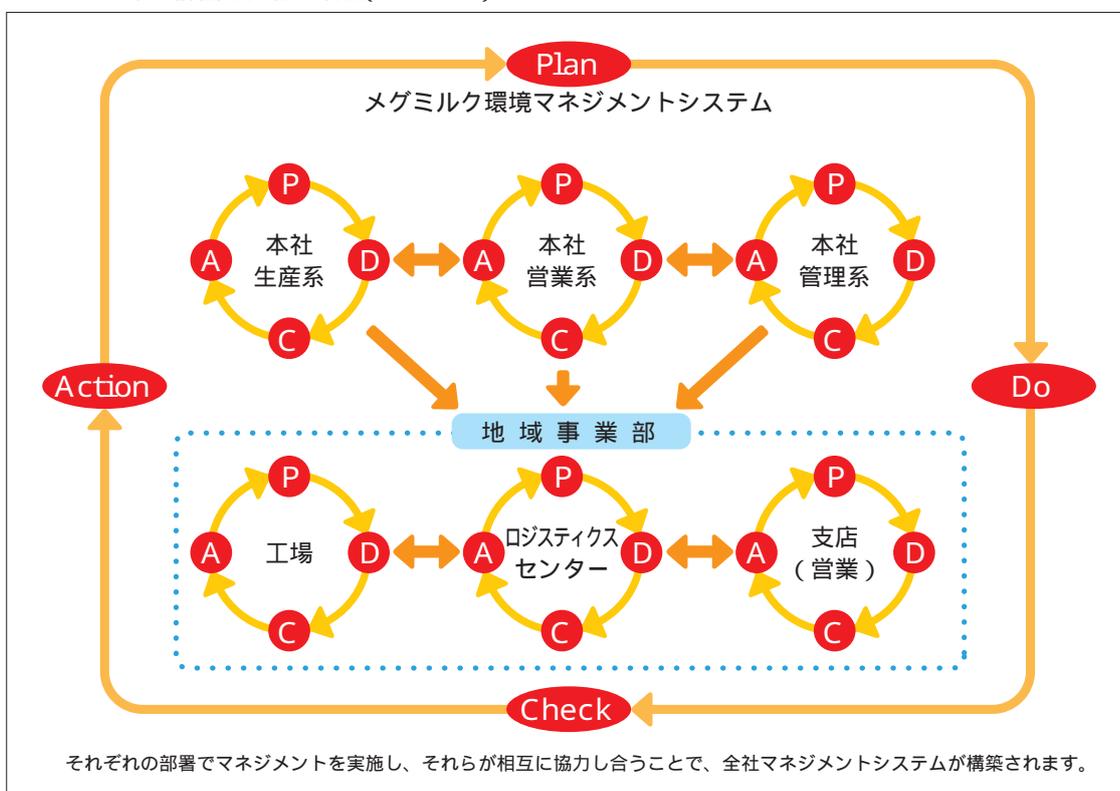
ISO14001の認証取得

2007年度EMSの展開

環境活動は特別なことではありません。メグミルクは豊かな自然の恵みを安全にお客様にお届けするという本来業務において、常に環境負荷低減に努めています。そのため、2007年度より環境マネジメントは日々の業務と一体化して取り組み(業務計画進捗管理制度と一体化)その上で目標の管理や情報の共有化のために環境会議を行っています。

EMS : Environmental Management System(環境マネジメントシステム)の略。組織が環境方針・目的目標を設定し、その達成に向けた取り組みを実施するための計画・体制・プロセス等の経営システム。

メグミルク業務計画進捗管理制度(イメージ)



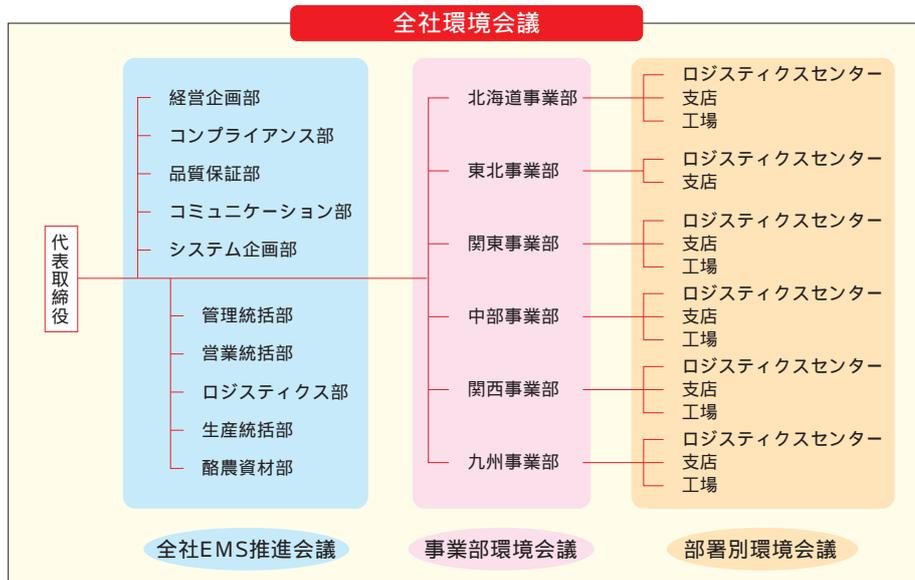
Plan (計画)

- CO₂の削減(全工場合計で原単位を前年比0.5%削減)
- 廃棄物のリサイクル率向上(83.7%以上)
- 廃棄物処理費用削減(前年比3%削減)
- EMS全社導入及びISO 14001のマルチサイト化による全社認証取得
- グリーン調達(原料調達の環境配慮、事務用品の環境配慮)
- 環境に配慮した商品開発(開発基準の策定など)
- 効率的な転配送の検討実施(トンキロメートルの削減)
- 会社保有車両(営業車など)の燃料使用量の効率化
- 紙・電気の節減
- 各事業所における地域社会への貢献

Do (実施)

メグミルクでは、本来業務において環境配慮を進めるため、環境という枠での組織は特別に編成していません。通常の組織の業務において、計画を推進・実施していきます。

計画推進・実施体制(イメージ)



Check (監視・測定)

2007年度より、計画から実施の進捗管理を行うために各階層ごとに会議を実施しています。これら会議では、環境に関する情報の共有化も行い、全社一丸となった環境推進体制の構築に寄与しています。



会議風景(工場)



社会に対する環境活動の理解促進

社会活動

メグミルクでは、それぞれの工場、支店などが環境保全に役立つ活動や、取り組みを行っています。

清掃活動

工場や支店周辺の美化活動を中心に自主的な清掃活動を実施しています。

京都工場池上製造所では、2006年11月に工場の排水を放流している農水路の清掃活動を実施しました。



京都工場池上製造所の清掃活動の様子

野田工場では、工場周辺の清掃活動を定期的に行っています。



野田工場の清掃活動の様子

川越工場は的場工場団地のクリーンキャンペーンに参加しました。



川越工場のクリーンキャンペーン参加の様子

首都圏西支店、ロジスティクス部配車センター、関東事業部管理二課、(株)グリーンサービスが入居する調布のビルでは、「クリーン・デー」と呼ばれる清掃活動をスタートさせました。また、首都圏北支店、首都圏東支店や各事業部でも同様の取り組みを行っています。



首都圏西支店などによるクリーン・デー

クリック募金

北海道事業部では、札幌市環境プラザが行う「環境教育へのクリック募金」に参加しています。2006年度の寄付の実績は24万円でした。これは札幌市の子どもたちの環境教育に役立てられます。



感謝状



北海道事業部

エコプロダクツ2006

メグミルクは、全国牛乳容器環境協議会加盟会員の一人として国内最大級の環境展「エコプロダクツ2006」に参加しました。全国牛乳容器環境協議会は全国の乳業メーカー、飲料用紙容器メーカー並びに団体会員、賛助会員の180会員からなる紙容器に関するリサイクル活動、環境保全に取り組んでいる団体であり、2010年度までに紙パックの回収率を50%以上(2005年度36.2%)という自主目標を掲げて活動に取り組んでいます。

当協議会は、エコプロダクツ展で手すきハガキ体験コーナーや牛乳パックを利用した工作物展示コーナーなどを設けて啓蒙を図り、牛乳パックのリサイクルに関心を持ってもらうために、来場者の方々に身近に感じていただきました。



ブラックイルミネーション 2006

環境省では地球温暖化防止のため、毎年6月の夏至の日に「CO₂削減 / ライトダウンキャンペーン」と題してライトアップ施設や家庭の電気を消すよう呼びかけるイベントを実施しています。メグミルクは「札幌工場」「海老名工場」「名古屋工場」「神戸工場」が20時から22時まで看板の照明を消すなどで参加しました。



札幌工場看板照明(点灯時)

パック連全国大会に参加

「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」主催の記念大会「第20回 牛乳パックの再利用を考える全国大会」が2006年7月29日～30日の二日間にわたり、日本での牛乳パック再利用活動発祥の地である山梨県甲府市で開催されました。

初日は、全国パック連の平井代表・山梨県知事の挨拶、全国大会のセレモニーに引き続き、環境省から再利用に関する基調報告、作家・池田香代子氏による記念講演が開催されました。二日目には、5つの分科会に分かれてそれぞれのテーマについて、自治体、市民団体、事業者が討論し、事例紹介や意見交換が熱心に行われました。

メグミルクからは環境対策チームが参加し、全国大会参加者との意見交換・交流を図りました。



パック連全国大会

牛乳紙パック工作、酪農体験イベントの実施

各見学工場では、通常の見学を受け入れているほかに、牛乳紙パック工作や、酪農体験を通じ、皆様に楽しみながら環境保護を啓蒙するイベント型工場見学を行っています。



海老名工場「牛乳紙パックで作る楽しい工作」イベント
春休みに行われた、楽しい工作づくり



神戸工場「牛乳紙パックで、手すきハガキづくり」イベント



京都工場池上製造所「親子で酪農体験と牛乳工場見学会」
工場に隣接した牧場と牛乳工場をセットで見学

メグミルクでは、工場見学やイベント、ホームページを使い、広くお客様に環境の大切さをご理解いただく取り組みを行っています。

各工場における環境コーナーの設置

見学工場に設置された「環境コーナー」では、環境を守るための工場の取り組みを展示パネルとして紹介しています。



パネルとリサイクル紙パックの現物を展示(京都工場)



(神戸工場)



(京都工場池上製造所)



廃棄物の徹底した分別の仕組みを写真で説明(札幌工場)

社会とのコミュニケーション

コミュニケーション活動

メグミルクでは、さまざまな形で社会とのコミュニケーションを図っています。

情報開示活動

積極的な工場見学の推進

全国の工場の中から、見学通路などのPR設備を備えた工場を選定し、見学工場として開放しています。牛乳やヨーグルトの製造工程や、品質管理、衛生管理、環境への取り組みが展示パネルやDVD映像によって、案内係の説明と共にご覧いただけます。



京都工場



海老名工場

企業ホームページ

企業情報、主要商品情報、イベントや工場見学の情報などをタイムリーに更新。幅広いお客様に「メグミルクの今」を知っていただけます。



食育活動・牛乳需要拡大活動

「早寝早起き朝ごはん」全国協議会への参加
早寝早起き朝ごはん運動とは、

子ども達の望ましい基本的な生活習慣を育成
生活リズムの重要性を再認識

地域ぐるみで支援するための環境設備など
地域社会、学校、家庭が一体となって、
心身共に健康な子ども達の育成を
めざす国民運動です。



メグミルクでは、この全国協議会への参加を通じ、全国子ども会連合会とタイアップした「夏休みラジオ体操キャンペーン」や文部科学省が主催するイベントへの協賛を積極的に実施しています。



ラジオ体操



早寝早起き朝ごはんリーフレット

3-A-DAYへの参加

3-A-Dayとは「牛乳・ヨーグルト・チーズをどれでも自由に1日3回、または3品、食生活に取り入れて、健康に良い食事を実践しよう」という食生活改善運動です。メグミルクでは、この運動への参加を通じ、牛乳や乳製品の消費拡大を図っています。



こども高野山夏季大学

毎日新聞大阪本社が主催する「こども高野山夏季大学」に協賛。豊かな自然の中で、早寝早起き朝ごはんの規則正しい生活リズムや、紙パックのリサイクルが大切なことをアピールしました。



ミルクコミュニティクラブの開設

ミルクコミュニティクラブとは、メグミルクが運営する牛乳の需要拡大を図るためのホームページです。

「ミルクをもっと楽しもう!」を合い言葉に、幅広いファンを持つ料理家の栗原はるみさんのレシピが楽しめる「ミルクのある生活」、メグミルクの社外取締役でもある医学博士の江澤郁子先生の「ミルク健康塾」、さらにはミルクの歴史、栄養、紙パック工作などのコンテンツを通じ、牛乳に関する幅広い知識・情報をお届けしています。



親子でミルククッキング

財団法人日本ベターホーム協会とタイアップして実施している、親子で参加できる楽しい料理教室です。2006年度は夏休みとクリスマス時期に実施。ベターホーム協会の講師の方が考案した、オリジナルミルクレシピを親子で楽しく作りながら、牛乳により親しんでいただくことを目的としています。



仙台会場



梅田会場

ファミリーミュージカルの実施

メグミルクでは、夏休み恒例の「メグミルク夏休みファミリーミュージカル」を、メルパルクホール大阪にて開催しています。

この「メグミルク夏休みファミリーミュージカル」は、「体を作る食だけではなく、心を育む感動をお届けしたい」という思いで毎年実施している恒例のイベントです。5歳から小学校低学年生くらいまでを対象に、前半は子どもが大好きな歌がいっぱいファミリーコンサート、後半がオリジナルミュージカルの2部構成です。歌と踊りが大好きなクッキーズが、毎年楽しく感動的なステージを繰り広げます。



スポーツ活動支援

スポーツイベントへの参加

メグミルクではスポーツを通じて、より多くの方々に健康な生活を楽しんでいただくための支援をしています。女子・少年のサッカー大会や、工場のある富里市で行われるスイカを食べて走るユニークな市民マラソン「富里スイカロードレース」のメインスポンサーのほか、特に成長期の子ども達にスポットを当てたさまざまなスポーツイベントを応援しています。



菅平女子サッカー大会



狭山市ジュニアサッカー大会



富里スイカロードレース



キッドピクス
(子どもエアロピクス大会)

安心安全をお届けする仕組み

MCQSの取り組み

メグミルクでは、独自の品質マネジメントシステム「MCQS(ミルクコミュニティ品質システム)」を構築し設立以来さまざまな取り組みを続けてきました。

品質方針

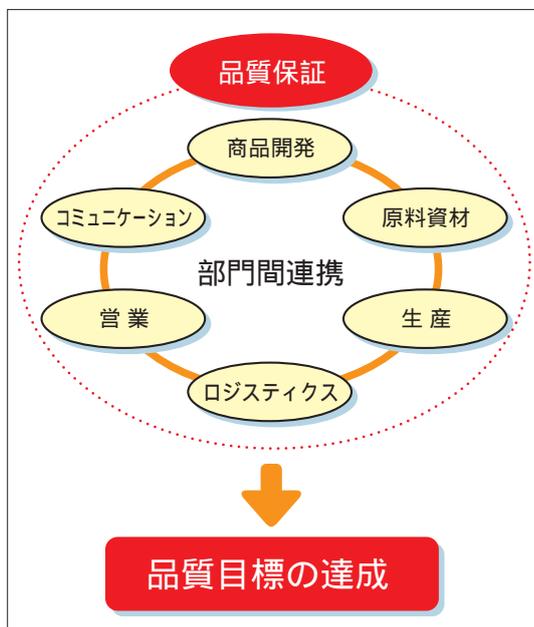
お客様の声を聴き、法令・社内基準遵守の企業倫理のもと、満足と信頼頂ける品質の実現を目指し、お客様第一主義を実践します。

MCQS 3つの施策

1.安全・安心な商品とサービスの提供

7部門の品質目標

品質保証活動は全社一丸となって取り組んでいく活動であり、コミュニケーション部門、商品開発部門、原料資材部門、生産部門、ロジスティクス部門、営業部門、品質保証部門は、「お客様第一主義の実践」に向け、品質保証に係る目標を掲げ部門間の連携を深め活動しています。



メグミルクは、これからも商品やサービスを通して、自然の恵みを生かし、おいしさ・健康・楽しさ・安心などお客様の求める価値を創造し、さまざまな形でご提供していきたいと考えています。

総合衛生管理と検査体制の確立

おいしさと安心をお届けするために、工場の各工程ではHACCP手法に基づいた管理を行うとともに、新しい検査方法も取り入れ、確実に検査した商品をお届けする体制を確立しています。

HACCP(Hazard Analysis Critical Control Point): ハサップまたはエイチ・エー・シー・シー・ピーと呼ばれていますが、日本語では「危害分析重要管理点」と訳されています。原料の入荷から製造・出荷までの工程においてあらかじめ危害を予測しその危害を防止するための重要管理点を特定してそのポイントを継続的に監視・記録し、異常が認められたらすぐに対策を取り解決するシステムです。

おいしさと安心をお届けするために私たちの実施している品質検査を、メグミルク牛乳を例にご紹介します。

受入時検査

原料乳を各工場で受け入れする際に検査を行い、合格したものだけを受け入れます。

[検査項目] 官能検査(風味、色あいなど)、理化学検査(乳成分、温度、比重、酸度、アルコールテスト)、細菌数・体細胞数検査、抗生物質検査

充填時検査

原料乳を殺菌後、容器に詰める際に検査を行い、合格したものを容器に充填します。

[検査項目] 官能検査(風味、色あいなど)、理化学検査(温度、比重)

製品検査

充填された製品の最終検査を行い、合格したものをお届けします。

[検査項目] 官能検査(風味、色あいなど)、理化学検査(乳成分、比重、酸度)、微生物検査(細菌数、大腸菌群)



受入時検査(アルコール検査)



充填時検査(比重測定)

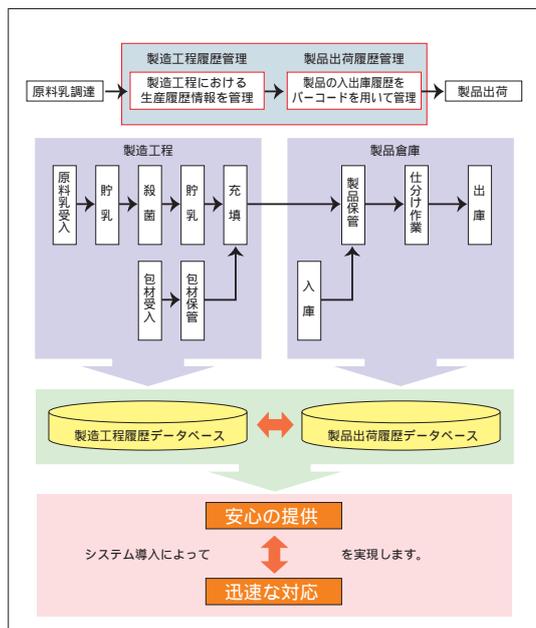


製品検査(微生物検査)

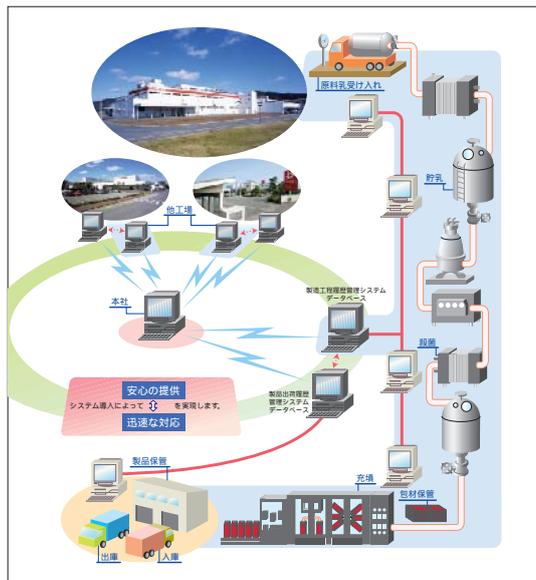
製造工程・出荷履歴管理システムの構築

牛乳では、「製造工程・出荷履歴管理システム」を構築しました。原料乳(生乳)が届けられてから製品を出荷するまでの履歴が素早く分かるシステムで、原料、製造工程及び製品について、万一問題が生じた場合に迅速な対応や原因究明が可能になりました。

システムの仕組み



イメージ図



2. 品質管理教育の充実・徹底

おいさと安心をお届けするために、食品の品質管理に関わる知識や行動を習得するための研修を実施しています。一人ひとりが品質管理のプロになるための知識を習得することで意識の徹底を図っています。

社内外の専門家や学識経験者による講演や研修。

職場ごとに、職務に応じた衛生知識や品質に関する教育。(検査分析手法、検査分析研修)

e-ラーニング・システムによる学習。

e-ラーニング・システムとは、イントラネット又は、インターネット活用による学習システムです。24時間いつでも必要な科目を学習することが可能です。



講演・研修の様子



e-ラーニング・システム



安心安全をお届けする仕組み

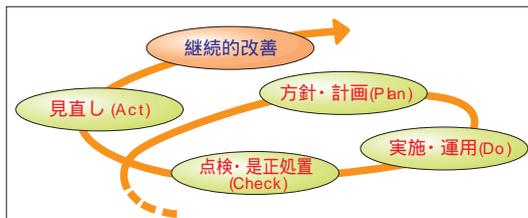
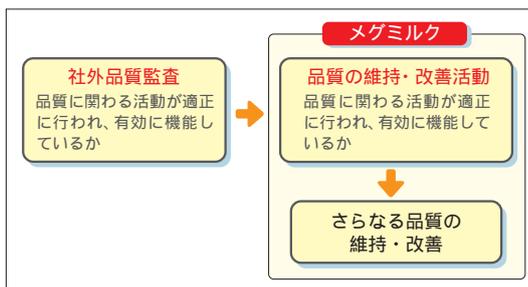
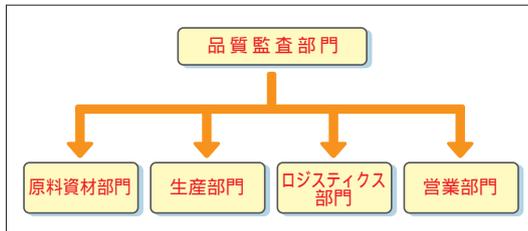
3 品質監査の強化

おいしさと安心をお届けするために、社内の品質監査を強化するとともに、第三者による社外品質監査の導入で、監査を強化しています。

品質は、工場からお客様の手に届くまで維持されなければなりません。メグミルクは、原料資材部門、生産部門、ロジスティクス部門、営業部門に対し、定期的な品質監査を実施し、品質の維持・改善活動を総合的にチェックし継続的に改善を図っています。

品質の維持・改善を図っていくことは、私たちに課せられた責務です。しかし、品質を維持・改善することに自己満足は許されません。常に、社会の変化に適切に対応しているかを確認することが重要です。このために、社外品質監査を導入し、客観的視点での品質監査も実施しています。

社内品質監査



けんさく君

メグミルクでは、牛乳では初めて「どこの工場、いつ作られたか(分単位)」の情報が分かるシステムを、作り上げました。

この情報は、パソコンと携帯電話の企業ホームページで、どなたでも簡単に検索いただけます。

ビジネスモデル特許出願中

製造日時検索システム 「けんさく君」



「携帯でけんさく君」QRコード
<http://www.megmilk.com/k/>



携帯電話からけんさく君



携帯でけんさく君画面



お客様センター

お客様とメグミルクをつなぐ窓口

「お客様センター」では、お客様との窓口としてお客様からの貴重なご意見を社内にフィードバックするとともに、各種のお問い合わせに的確にお答えできるよう、私たち自身の知識を向上させ、お客様に価値あるサービスをご提供できるよう努めています。



お客様センターの様子



勉強会で商品の特徴や味をチェック



実際の使い勝手も手に取って確認

「お客様センター」では、専任のスタッフによるフリーダイヤル(0120-464-369)をはじめ、企業ホームページにも「お客様センター」コーナーを設置。

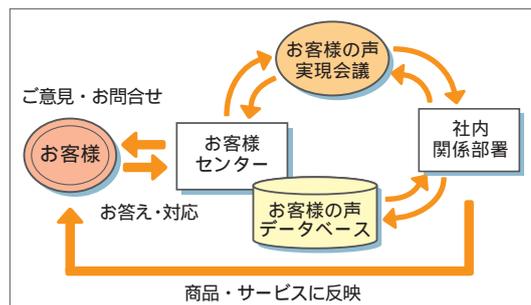
よくあるご質問(FAQ)の紹介や、メールによる受付を行っています。

さらに、声をお寄せくださったお客様にアンケートの実施、「お客様対応品質向上月間」の設定など、社員全員がお客様の気持ちを大切に、お客様満足度を向上させる取り組みを継続して行っています。

お客様の声を社内にフィードバックし、商品やサービスの改善に生かします。

お客様センターのもうひとつの大きな役目は、皆様から寄せられた貴重な声のフィードバックです。

日報や週報、月報を経営層をはじめ、関係者に発信。また社内関係部署マネージャーをメンバーとした「お客様の声実現会議」の実施により、商品やサービスの改善に努めています。



コーポレートガバナンスとコンプライアンス

コーポレートガバナンス

企業が、株主・社員・取引先・消費者・地域社会などさまざまなステークホルダーの皆様の期待に応えるためには、適正なコーポレートガバナンスが必要です。

メグミルクは、企業理念を実現するために、社会から信頼されるガバナンスを構築し企業価値の向上に努めています。また「経営の透明性」を確保し「経営責任」を明確化するために、「社外取締役」や「社外監査役」を選任しています。

ミルクコミュニティ委員会

ミルクコミュニティ委員会は、メグミルクが重要な意思決定をするにあたり、それらが社会の常識や価値観と乖離することのないよう、外部の視点から意見を求めることを目的として設置されています。会社設立時より開催され、現在は第二期の委員会を開催中です。

委員会は、学識経験者、企業経営者、消費者代表、マスコミ、弁護士、公認会計士のメンバーで構成され、経営層に対しさまざまな角度からのご意見・ご提言を

いただいています。

いただいたご意見は企業活動に反映させるとともに、社内報などを通じて社内全体に周知を図っています。

内部統制システム

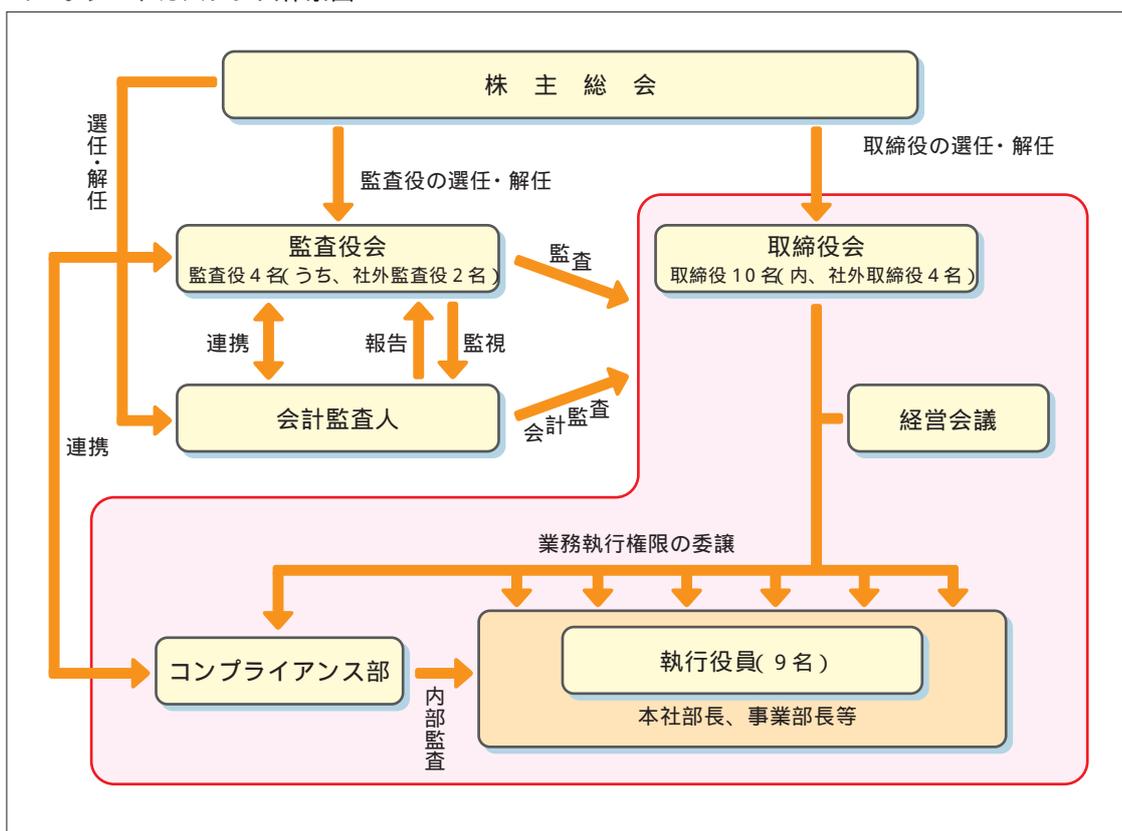
会社法への対応

2006年5月に施行された「会社法」に基づき、メグミルクでは「内部統制に関する基本方針」を取締役会で決議しました。現在、この方針に基づき、各種コンプライアンス活動の推進、内部監査の実施、ミルクコミュニティ品質システム(MCQS)に基づく品質保証活動などを実施しています。

情報セキュリティ体制

今日、情報は企業にとって極めて重要な資産です。メグミルクはさまざまな情報資産を安全に管理するために、各種規定類(個人情報保護規則などを含む)を整備し、その遵守状況について各職場毎に自己点検を行うとともに内部監査時に確認・検証しています。

コーポレートガバナンス体系図



コンプライアンス

コンプライアンス推進体制

メグミルクは、コンプライアンスの徹底を求める今日の社会的状況を踏まえ、設立当初からコーポレートスタッフ部門としてコンプライアンス部を設置して、企業倫理の維持向上や法令遵守の徹底に努めています。また、全社的なコンプライアンス推進体制として、代表取締役社長を委員長とするコンプライアンス委員会のもと、本社部長・グループ部長・事業部長をコンプライアンス責任者とする体制を構築しています。また、同様な仕組みを子会社にも構築するとともに、コンプライアンス委員会には、子会社の社長(又はコンプライアンス担当役員)が出席してコンプライアンス方針や重点活動計画の協議に参加し、グループをあげてコンプライアンスの推進に取り組んでいます。

「企業行動規範」の策定と署名の実施

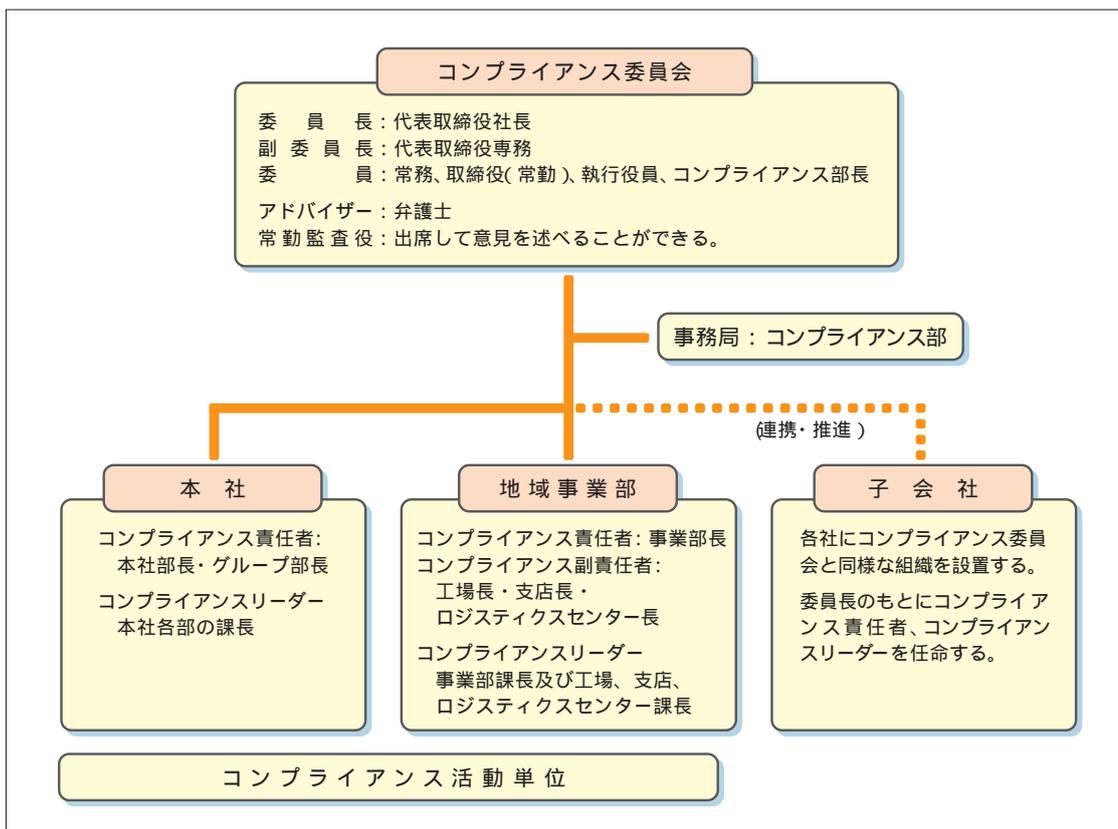
メグミルクでは、企業理念を実現するための行動の基本を「ミルクコミュニティ行動宣言」、企業の社会的責任を果たすための具体的な行動のあり方を「ミルクコミュニティ行動指針」として定め、これらをあわせて「企業

行動規範」と呼んでいます。毎年8月22日の創立記念日には、全役員・社員が、企業理念を理解し「企業行動規範」に基づいて行動することを宣誓する「企業行動規範遵守宣誓」に署名しています。また、定期的に各職場のチーム単位で、行動指針の一つ一つが自らの業務に照らしてどのような意味があるかについて協議し、行動指針への理解を深めています。

コンプライアンス研修

コンプライアンスの重要性を全役員・社員が認識し体質化するためには、タイムリーに各階層に適したコンプライアンス研修を繰り返し実施する必要があります。メグミルクでは、役員以下経営幹部社員を対象とした「役員・幹部社員コンプライアンス研修」や経営職を対象とした「コンプライアンス責任者・リーダー研修」、一般社員を主対象とした「コンプライアンス研修」、人事部門の階層別研修に合わせた「階層別コンプライアンス研修」、子会社の役員・社員を対象とした「子会社コンプライアンス研修」など、さまざまな研修を毎年実施し、コンプライアンス意識の浸透・確立に努めています。

コンプライアンス推進体制の組織図



コーポレートガバナンスとコンプライアンス

特別相談窓口

2006年4月施行の公益通報者保護法は、公益のために通報した労働者を保護するものですが、事業者はこれに応えて「通報・特別相談窓口」の設置を促されています。

メグミルクは、会社設立の年から特別相談窓口として「MEGホットライン」を設けています。同法の施行後は、更に体制を充実し、メグミルク社員のほかにメグミルクで働く派遣会社社員、請負会社社員、子会社の社員にまで相談受付対象を拡大しました。また、このほかに、弁護士による「社外弁護士ホットライン」を設け、法の専門家への相談体制も新たに開設しました。その運営の基本は、「秘密厳守」と原則として相談者の「不利益扱いの禁止」とし、安心して相談できるようにしています。

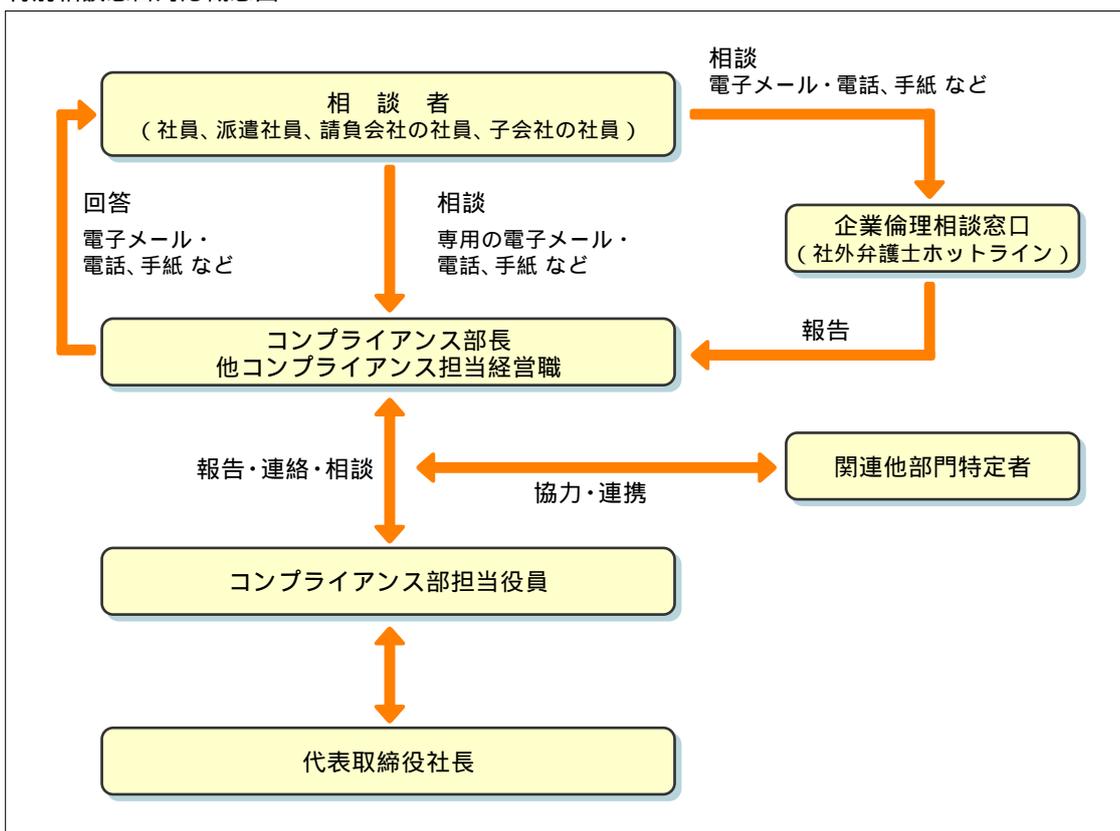
なお、日常のコンプライアンス上の相談は、まず職場の上司かコンプライアンスリーダーに相談することとし、特別の事情があれば、「MEGホットライン」や「社外弁護士ホットライン」に相談することとしています。

内部監査時の確認と

コンプライアンスアンケートの実施

メグミルクでは、コンプライアンス意識が現場に浸透し業務に反映されているかを確認するために、内部監査時に所属長及び一般社員に対するコンプライアンスヒアリングを実施しています。また、毎年、全社員に対する無記名の「コンプライアンス定着度評価アンケート」を実施し(回収率99%以上)、コンプライアンスの浸透状況を把握するとともに、課題を抽出し解決に向けた対応を行っています。

特別相談窓口対応概念図



労働安全衛生

メグミルクでは、『社員一人ひとりが、安全と健康を大切に、生き生きとして働ける明るい快適な職場環境づくりを全員参加で進める』を労働安全衛生の基本方針として掲げ、これをもとにさまざまな取り組みを行っています。

健康管理体制の充実

全ての社員に対する健康の維持、疾病の予防・早期発見を目的に、メグミルクでは定期健康診断の100%受診を推進しています。一次健診の結果、再検査対象となった社員に対しても受診の指導を行っています。



健康診断



自動車事故ゼロの取り組み

メグミルクでは自動車事故ゼロを目標に日々活動を実践しています。2006年度は「一時停止の励行」「交差点における人・自動車との接触の防止」「駐車場内における接触の防止」を最重点注意事項に掲げました。



営業担当者の乗車風景



工場での活動事例

「1 day my 評価」の実践

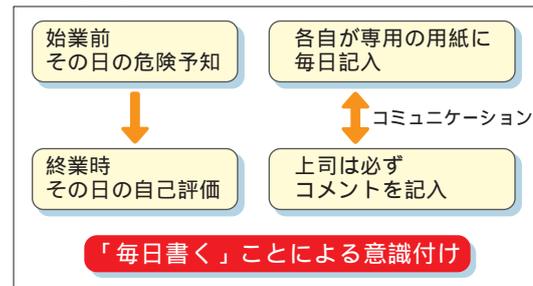
工場では、一人ひとりが始業時にその日の危険予知（KY）をし、終業時に自己評価を実施する「1 day my 評価」を実施して、安全先取り活動を行っています。

事業所によって、「1 week my 評価」など期間を調整して実施しているところもあります。



工場でのセルフチェック

「1 day my 評価」とは



「リスクアセスメント」の導入

職場に潜む危険性又は有害性（ハザード）と災害発生のプロセスを把握し、ルールに従ってリスクを除去・低減する対策を検討し、改善を進めています。



工場の会議

指差し称呼の実践

構内の横断時、作業の各場面で指差し称呼を行い、安全で安心な作業に努めています。指差し称呼は、危険を伴う作業の要所要所で、集中力を高め、「うっかり、ぼんやり」などのヒューマンエラーによる事故を防ぐのに有効です。



指差し称呼の風景

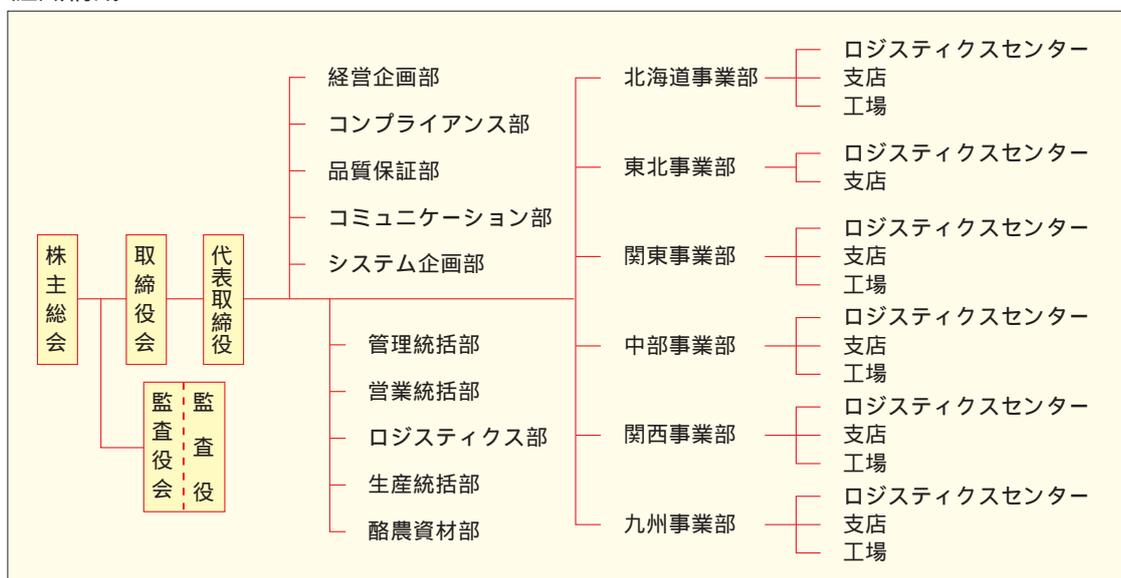


指差し称呼の教育演練の様子

会社概要

商号	日本ミルクコミュニティ株式会社 Nippon Milk Community Co., Ltd.
本社	〒162-0067 東京都新宿区富久町10-5 新宿EASTビル (代表)03-5369-6800
創業	2003年(平成15年)1月1日
資本金	142億円
社員数	1,736名(2007年3月現在)
株主(出資比率)	全国農業協同組合連合会(40%) 雪印乳業株式会社(30%) 全国酪農業協同組合連合会(20%) 農林中央金庫(10%)
事業目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 牛乳、乳製品の製造・販売 2. 果汁、清涼飲料水、炭酸飲料水の製造・販売 3. 菓子、調味料、穀物類を原料とした農産加工品の製造・販売 4. 農畜産物及びその加工食品の販売 5. 酒類の販売 6. 医薬部外品の販売 7. 農畜水産加工品その他の食品、日用雑貨、健康器具の通信販売 8. 工業所有権及びノウハウの企画、開発、制作、管理、賃貸及び販売 9. 産業廃棄物の処理 10. 貨物利用運送事業 11. 前各号に関連する一切の事業

組織構成



2006年度の業績

2006年度業績について

2006年は、中期三カ年経営計画(MEG RISING PLAN = MRP)の初年度として、7つの中期経営方針に基づくアクションプランの着実な実践と、ローコスト・オペレーションによるコスト低減の推進により利益計画を達成しました。

売上高においては、大型新商品「ナチュレ恵」の投入や、野菜系飲料などの新商品・改良品が寄与したものの、牛乳消費の漸減や上期の全国的な天候不順の影響による清涼飲料などの売上減をカバーできず、通年では前年・計画ともに下回りました。

利益面では、MRP施策に基づき、積極的なコミュニケーション投資・設備投資・システム投資を行った結果、前年を下回りましたが、ローコスト・オペレーションの徹底により、計画は上回りました。

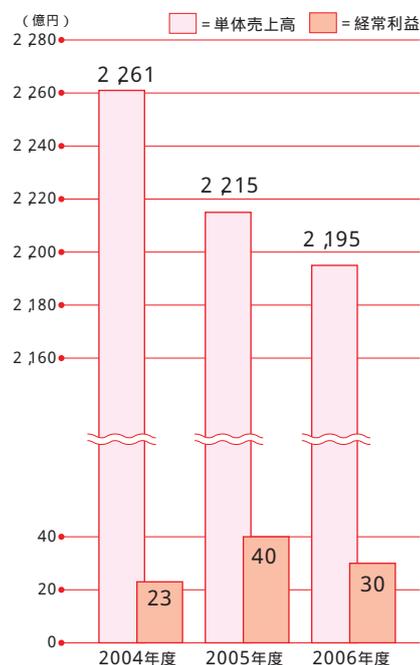
白物飲料では、2006年5月にプレミアムタイプの「牛乳が好きな人のメグミルク」を全国展開し牛乳の売上拡大を図った結果、既存の「メグミルク牛乳」と合わせて、売上は180億円、メグミルクブランド牛乳としては、前年比109%の伸長となりました。しかし、牛乳全体では、市場の低迷を受け、売上は630億円、前年比94%となりました。一方「毎日骨太」「しっかり飲める特農44」が好調に推移し、白物飲料は前年を上回りました。

色物飲料他では、「雪印コーヒー」が好調を維持したほか、健康志向を反映して「健康菜園シリーズ」をはじめとする野菜系飲料が大幅に伸長し、清涼飲料などの落ち込みをカバーしました。また、3月に発売した「ナチュレ恵」の好調により、プレーンヨーグルトが前年を大幅に上回ったほか、ソフトヨーグルト、デザート類が好調に推移しました。

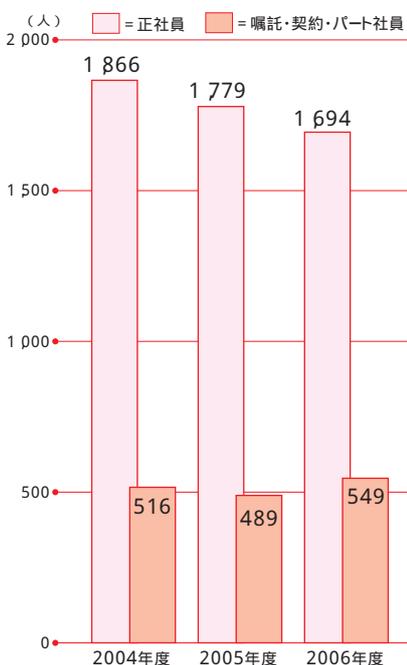
業績の推移

	2004年度	2005年度	2006年度	
単体売上高 (億円)	2,261	2,215	2,195	
経常利益 (億円)	23	40	30	
社員数(人)	正社員のみ(除く、出向・休職者)	1,866	1,779	1,694
	嘱託・契約・パート社員	516	489	549
生産量 (kl)	958,000	944,000	963,000	

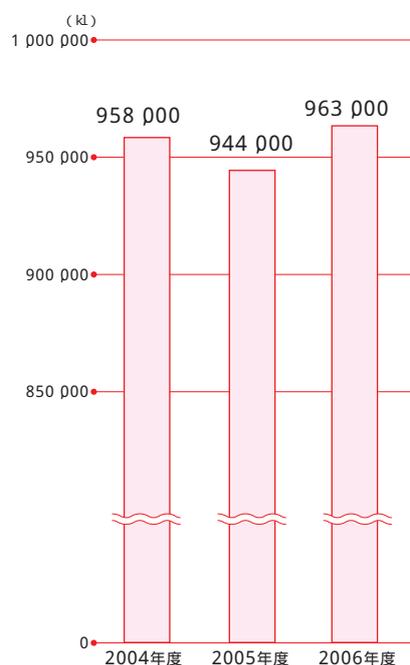
単体売上高と経常利益



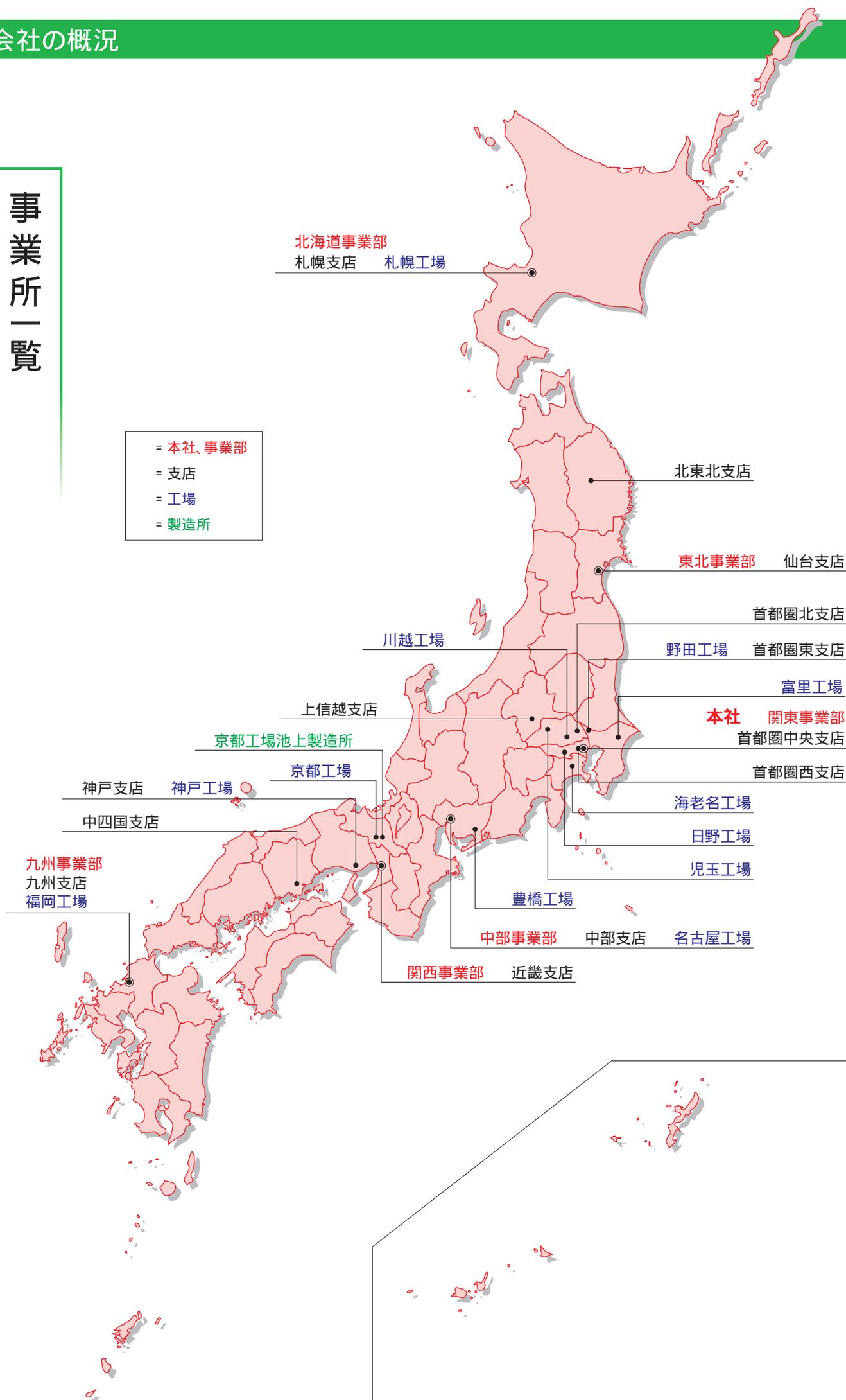
社員数



生産量



事業所一覽



環境省「環境報告書ガイドライン(2003年版)」との対応

ガイドラインとの対応

分野	項目・情報	ページ
1) 基本的項目	1. 経営責任者の緒言(総括及び誓約を含む)	2
	2. 報告に当たっての基本的要件(対象組織・期間・分野)	4
	3. 事業の概況	1, 35-37
2) 事業活動における環境配慮の方針・目標・実績等の総括	4. 事業活動における環境配慮の方針	5
	5. 事業活動における環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括	6
	6. 事業活動のマテリアルバランス	19
	7. 環境会計情報の総括	-
3) 環境マネジメントに関する状況	8. 環境マネジメントシステムの状況	20-22
	9. 環境に配慮したサプライチェーンマネジメント等の状況	-
	10. 環境に配慮した新技術等の研究開発の状況	-
	11. 環境情報開示、環境コミュニケーションの状況	23-24
	12. 環境に関する規制遵守の状況	-
	13. 環境に関する社会貢献活動の状況	23-24
4) 事業活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取組の状況	14. 総エネルギー投入量及びその低減対策	9-12, 19
	15. 総物質投入量及びその低減対策	18-19
	16. 水資源投入量及びその低減対策	7-8, 19
	17. 温室効果ガス等の大気への排出量及びその低減対策	9-12
	18. 化学物質排出量・移動量及びその低減対策	-
	19. 総製品生産量又は総商品販売量	-
	20. 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	13-14, 19
	21. 総排水量及びその低減対策	7-8, 19
	22. 輸送に係る環境負荷の状況及びその低減対策	15-17, 19
	23. グリーン購入の状況及びその推進方策	17-18
	24. サービスのライフサイクルでの環境負荷の状況及びその低減対策	-
5) 社会的取組の状況	25. 社会的取組の状況	
	ア. 労働安全衛生に係る情報	34
	イ. 人権及び雇用に係る情報	33, 36
	ウ. 地域の文化の尊重及び保護等に係る情報	-
	エ. 環境関連以外の情報及び社会的コミュニケーションの状況	25-26
	オ. 広範な消費者保護及び品質に係る方針、計画、取組の概要	27-29
	カ. 政治及び倫理に係る情報	31-33
	キ. 個人情報保護に係る情報	31

日本ミルクコミュニティ株式会社

